

〔基準 8 社会連携・社会貢献〕

1 現状の説明

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

目的大学である本学は、教育・研究活動のみならず、社会との連携・協力が、地域社会及び国際社会はもとより、他大学等との関係の中で一層本学の存在意義を高めるという認識のもと、重要な活動であると位置づけている。

大学全体としての社会連携・社会貢献に係る基本方針は策定していないが、産学連携や知的財産の活用に関しては、産学連携・知的財産本部会議規程の中で「学校法人産業医科大学において、産学連携の推進並びに研究成果等の知的財産を組織的に創生、保護、管理及び活用することにより、知的財産を広く社会に還元し、社会の発展に寄与することを目的とする。」旨の方針を掲げており、また、国際交流の面では、国際交流センター規程の中で国際交流の推進を図るため、教育、研究及び医療の連携、学術交流及び学生交流の実施、外国人留学生、外国人研究者等への助言、支援等に関する活動を行うことを定めており、これらの方針に基づき、さまざまな社会活動を行っていることから、評価できると考える。(資料 8 - 1 第 1 条)、(資料 8 - 2 第 2 条)

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

① 東京電力(株)福島原子力発電所への医師派遣

平成 23 年わが国は東日本大震災を経験したが、本学は震災直後から東北地方での医療支援にはじまり、福島第一原発事故対応の労働者への医療支援にいち早く取り組み、現在も作業に携わる人々の健康支援を継続している。

② 公開講座等の生涯学習機会の提供

産業医科大学学会主催による公開講座及び北九州市内 4 大学共同で 4 大学スクラム講座を開催している。(資料 8 - 3)、(資料 8 - 4)

③ 高校生を対象にした講義

独立行政法人 日本学術振興会のプログラムである「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催している。また、文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール事業」を福岡県立小倉高校からの委託により開催している。さらに、高校生の理科離れに対して福岡県立北筑高校の学生を対象に「チャレンジラボ」を開催している。(資料 8 - 5)、(資料 8 - 6)、(資料 8 - 7)

④ 産業現場への知見の発信

産業生態科学研究所では、卒業生産業医をはじめとする産業現場の産業保健専門職からの相談や依頼に対して、研究室の専門分野ごとの知見や技術を紹介するなど研究の成果を積極的に還元している。

本研究所の教員は、産業医学に関連する専門分野ごとに、国内外の学術団体や公的機関の雑誌編集、委員、事務局等を担当している。特に、わが国の産業医学に関する最大の学術団体である日本産業衛生学会の活動に関しては、その主要な役職を

これまで継続的に担当している。

本研究所の教員は、テレビ、新聞等の広報媒体を通じて、産業医学の研究や産業医の活動に関連した事項について、公益に寄与する適切な情報を社会に発信している。

2 点検・評価

(1) 効果が上がっている事項

① 大学全体

東京電力(株)福島原子力発電所への医師派遣は、目的大学としての本学の正に本学たる活動であるが、この行動により、結果的には本学に対する、社会の認知度が高まったと考える。

(2) 改善すべき事項

① 大学全体

p 87 で既述したとおり公開講座等の生涯学習機会の提供を実施しているが、学内に一元的に把握し、担当する部署がないので、さらなる社会への生涯学習機会を提供するには限界があると考ええる。

3 将来に向けた発展方策

(1) 効果が上がっている事項

① 大学全体

東京電力(株)福島原子力発電所への医師派遣は、本学の目的大学としての意義を証明するものであると考えることから、東京電力(株)の自主的・主体的な取り組みに対しては、今後も依頼や要請があれば積極的に協力したいと考える。

(2) 改善すべき事項

① 大学全体

社会との連携・協力を推進するには、新たな学内組織構築を視野に入れた改善策の検討が必要と考える。

4 根拠資料

資料 8 - 1 産学連携・知的財産本部規程

資料 8 - 2 国際交流センター規程

資料 8 - 3 産業医科大学学会公開講座ポスター

資料 8 - 4 4 大学スクラム講座ポスター

資料 8 - 5 ひらめき☆ときめきサイエンス パンフレット

資料 8 - 6 スーパーサイエンスハイスクール事業に係る協力依頼

資料 8 - 7 チャレンジラボ説明会資料